

『Informal Seminar On Permafrost (ISOP)』開催報告

本研究集会は、末吉哲雄氏（当時、低温科学研究所研究員）の呼びかけにより 2006 年に “Informal Seminar On Permafrost (ISOP)” として永久凍土関連研究の議論・情報交換を気軽に行おうという目的で開催された。現在も若手凍土研究者が中心となり、低温科学研究所後援の研究集会 “永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会” として年 2 回程度開かれている。本稿では、平成 20 年度に開催された第 7・8 回の研究集会について報告する。

第 7 回 永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会

日 時：2008 年 11 月 10 日 (月) 13:10-11 日 (火)
16:20

場 所：北海道大学低温科学研究所 新棟 N213 号室

第 7 回目の研究集会には、発表が 15 件、合計 17 名の参加があった。

2 日間に亘り、永久凍土に関連した世界各地の現地観測からモデル研究まで幅広い発表が行われ、活発な議論が交わされた。

発表題目：

1. 富士山の永久凍土‘再’発見？にむけて（筑波大・池田）
2. 永久凍土研究における衛星利用について（宮城大・原田）
3. スバルバルにおける構造土の分布について（筑波大・渡辺）
4. 移動観測による大雪山永久凍土域での気象状態の把握（北大環・前田）
5. 大雪山平ヶ岳南方湿原のバルサの最近の変化（低温研・曾根）
6. 大雪山調査とアラスカポーカフラット周辺調査の報告（北大環・新井）
7. シベリア永久凍土の土壌水安定同位体と凍土-生態系相互作用（北大環・杉本）

8. アルタイで調査したピングオについて（北大工・岩花）
9. 昭和基地周辺と南極半島露岩域の永久凍土・周氷河地形（極地研・福井）
10. 凍土の熱伝導率について（三重大・渡辺）
11. 全球気候モデルにおける凍土過程・凍土分布の現状と改良（IARC・斉藤）
12. シベリアの地温データと再解析データの比較（CCSR・末吉）
13. アラスカ内陸部チャタニカ谷での降雨流出観測（低温研・石井）
14. アラスカ森林火災跡地でのアルベード変動について（低温研・兒玉）
15. 国際的な永久凍土温度観測の現状（北大環・石川）

第 8 回 永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会

日 時：2009 年 2 月 27 日 (金) 10:00-18:00

場 所：北海道大学低温科学研究所 新棟 N213 号室

第 8 回目の研究集会には、発表が 11 件、合計 16 名の参加があった。

地形学的な視点からは、周氷河現象からの古環境復元に向けた提言や日本やスピッツベルゲン、南極での研究報告、永久凍土の熱的・水文学的な観測研究は、アラスカの火災跡地・東シベリアからの報告と、これまでの水文研究のレビューが報告された。この他、低温研裏庭での長期的微気象観測データの利用についてと NICOP エクスカーションの報告がなされた。

発表題目：

1. 国際的凍土観測ネットワークへの貢献について（北大環・石川）
2. 気候指標としての周氷河現象（筑波大・松岡）

3. アラスカ州内陸部・ポーカーフラットの森林火災跡地における地温観測結果 (産総研・澤田)
4. 東シベリアの湿潤化と永久凍土環境の変化—2008年状況の報告— (JAMSTEC・飯島)
5. 赤石山脈間ノ岳の岩石氷河形成期に関する¹⁴C年代 (筑波大・池田)
6. スバルパールでの研究計画 (筑波大・渡邊)
7. 大雪山の永久凍土域と非永久凍土域の気象状態の違いについて—来年度調査計画— (北大環・前田)
8. 南極半島の周氷河環境 (低温研・森)
9. 水文研究における凍土の存在とは? (JAMSTEC・鈴木)
10. Preliminary results from “ILTS snow and ground temperature data set” (東大・末吉)
11. NICOP エクスカーションのスライドショー (北大工・岩花)
(北海道大学大学院工学研究科 岩花剛)
(2009年3月25日受付)

『日本永久凍土研究会 (Japan Permafrost Association ; JPA)』 発足のお知らせ

このたび、“Informal Seminar On Permafrost (ISOP)”を発展させた形で、日本で永久凍土の研究に従事している研究者を中心として「日本永久凍土研究会 (Japan Permafrost Association ; JPA)」を発足させました。

本会は、永久凍土・周氷河環境に関する研究をはじめとする情報を収集・交換し、永久凍土研究の啓蒙と発展を図ることを目的としています。学会の枠を越え、より広く分野から会員を募り、研究の発展をさせたいと考えております。

活動内容は、

- 1) 国際永久凍土連合(IPA)との連絡および対応
- 2) 永久凍土等の調査・研究に関する情報収集および情報交換
- 3) 永久凍土等に関する研究会および集会の開催および支援としています。

また、会員で希望する方には、IPA発行の年報「Frozen Ground」をお送りします。

本会ではより多くの方に入会していただけるよう、ご案内いたします。

なお、本会ではIPAへの日本側窓口としての働きもあり、国別負担金を納める必要があるために、会費の納入もお願いしています。会費は一口1,000円となっています(学生会員は無料です)。

まだ簡素ではありますが、以下のURLに規約を載せてあります。

http://www.myu.ac.jp/~haradak/jpa_index.html

入会希望、会費の納入方法、ならびにその他のご質問、お問い合わせは事務局・原田(宮城大学・haradak@myu.ac.jp)までお願いします。

(北海道大学大学院工学研究科 岩花剛)
(2009年3月25日受付)